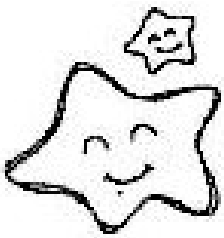
QSK(にぬふぁぶし) 1997 年 9 月 18 日 第三種郵便物承認　通巻 7884 号 2022 年 10 月 1 日 発行　(1)
（毎月 1.2.3.4.5.6.7 がつく日）

QSK
にぬふぁぶし
No.307　子（ね）の方向の星（北極星）



第78回精神保健シンポジウム・那覇を企画して

高橋年男（沖縄県精神保健福祉会連合会・理事）

私宅監置を描いたドキュメント映画「夜明け前のうた～消された沖縄の障害者」が全国上映中だった昨年（2021年）10月、日本精神衛生会の藤井克徳理事から、同映画の原義和監督のところに、シンポジウムの沖縄開催（共催）について提案・打診が飛び込んできました。

さっそく、映画制作にかかわったメンバーで相談会がもたれ、米軍政下におかれた数多の犠牲から脱するために、平和と人権を希求した沖縄の日本復帰から50年、その節目の年に、改めて私宅監置と、「国策による犠牲を問う」ことを中心テーマにしようと、方向性がまとまりました。

昨年沖縄では、精神科病院で新型コロナ感染のクラスターが相次ぎ、問題の所在を明らかにする取り組みを行っている「おきなわ障害者人権センター」も共催団体になりました。

シンポジウムでは、犠牲にされた当事者の声を聴かせてほしいと、意見が一致しました。40年もの長期にわたる社会的入院を、人生被害として国を訴えた伊藤時男さんに登壇してもらうことになりました。

そして、精神医療の闇を明らかにするためにも、ハンセン病、旧優生保護法による国策の問題点について、準備会はミニ学習会を積み重ねていきました。

（次のページへ）